

2009 年 5 月 7 日

## Crew JAPAN メンバー決定とこれからの課題

ナショナルチーム委員長 朝倉直樹

すでにホームページで公表していますように、4 月 11 日から 24 日まで戸田で行われた選考合宿で Crew JAPAN のメンバーが確定いたしました。ここでは、それを受けて主に今後 Crew JAPAN として解決していかなければならない課題を中心に皆様に状況説明をし、ご意見を頂戴したいと考えております。

なお、本レポートの協会機関決定は 5 月理事会となりますが、早急に意見交換をいたしたく掲載しました。理事会にて内容変更が決議された場合は、直ちに変更内容を掲載します。

### 1. メンバー決定と今後の課題

今回のメンバー決定の過程については、ヘッドコーチ、Maxrath（マックス）のレポートを別に発表いたしましたので、それを参照いただくことをお願いいたします。

さて、今回のメンバー決定で、当初の方針を変更せざるを得なかった点がありました。当初の計画では、今年の世界選手権へ、LM1x、LM2x、LM4-、LW1x、LW2x の 5 種目を派遣する計画でしたが、オリンピック翌年ということもあり、相対的にスカル種目へチャレンジする選手が少なく、結果として、マックスは、LM2x、LW2x の派遣を避けて、有力選手数の多かったスイープ選手から LM4- のリザーブという役割を与える形で LM2- を選考することにいたしました。今回の方針変更については何とぞご理解をお願い申し上げます。

この結果を踏まえ、後で述べます来年以降の強化策も考えると今年は代表選手のさらなる強化成長に加えて、選考を逃した選手、それに続く選手を中心により大きな Crew JAPAN 組成をできるように幅広い強化が必要と考えます。また、オリンピックのメダルを狙う力を有する選手の数を一人でも多く増やすために U23 世代の有力選手などこれからの選手に焦点を当てた強化策も積極的に実施して参ります。それを受けて選手も一人一人前向きに成長への努力を怠ることのないように活動してください。

しかし、これらのことを実現するためには、協会としても相当の努力が必要だと痛感しております。その他にも大きな課題が存在していますので、これらの課題に対して、どのような方策を協会として取るべきかについては後述させていただきます。

### 2. 「みんなの Crew JAPAN」→課題解決への前提

今回選考で指摘される課題も、一時的な問題ではなく、解決に長期的な視点が必要な構造的な問題と考えます。しかし、時間は待ってくれません。ロンドンそして東京？とオリンピックは 4 年ごとに必ずやってきますのでそれを安易に見送っていては、百年河清を俟つこととなります。

難しい課題への挑戦には、多くの力が必要です。日本のボートに課せられた問題解決には、一部の人が極めて重い負荷を背負うよりは、多くの人々が分担して力を合わせる必要があります。

多くの人からの力添えを得るために、**Crew JAPAN** のことを多くの方々に知っていただき理解していただくことが先ず必要と考えます。前にも述べましたが、皆で支える **Crew JAPAN** を目指さねばならず、そのために「みんなの **Crew JAPAN**」という状況を作り出さねばなりません。「**Crew JAPAN** て何？」ということではいけません。

**Crew JAPAN** を知っていただくために通常の告知（ホームページ、月刊ローイング）以外にいくつかの試みを開始いたしました。

①マックスを多くの関係者に知ってもらうこと→ヘッドコーチ、マックスはある意味で **Crew JAPAN** の象徴です。そして大柄の外人はいい意味で目立ちます。このマックスに多くの場所に出て行ってもらいます。すでに北から長沼、白石川、貞山堀、小見川、天竜、佐鳴湖、川辺、神通川、津幡、桂湖、瀬田の水域を見てもらいました。これは一つには **Crew JAPAN** の合宿候補地を見るという目的もありますが、一番の目的は、それぞれの水域で活躍する選手、指導者などボート関係者と交流を深め、マックスを知ってもらい、またマックスも日本のボートをより深く知るということにあります。おかげ様でこの目的に対して十分な成果が上がっています。訪問に際しましてお世話になりました関係者の皆様に紙面を借りまして改めて深く御礼申し上げます。

また、マックスには、機会あるごとにコーチセミナーという形でも皆さんと交流する場を持ってもらいたいと考えています。すでに朝日レガッタに際して行われたセミナーで話してもらいましたし、軽量級に際しましてセミナーを開催の予定です。

②**Crew JAPAN** アイデンティティの創出→「**Crew JAPAN** て何？」と問われた時に、視覚的にすぐに訴求できるシンボルとして新しいロゴ・マークを作りました。既にホームページで発表していますが、このマークには、日本らしさ、いい意味での奇抜さインパクトの強さを盛り込みましたが、何よりも力強さをメッセージとして表現しています。このロゴ・マークを前面に押し立てて今後種々の **Crew JAPAN** プロモーションを行い多くの方々に **Crew JAPAN** を認知していただきたいと希望しています。

これらの告知努力と関係者との絶え間ないコミュニケーションによりできるだけ早期に「みんなの **Crew JAPAN**」と呼べる状況を作り出していきたいと考えております。

### 3. 選手強化でまず取り組まねばならない大きな課題

「みんなの **Crew JAPAN**」の実現、いわばオリンピックメダル獲得への「環境整備」を進める一方で、選手強化という大命題にも並行して取り組んでいかねばなりません。この問題も協会の一部の人間のみでできることなく、多くの方々のお力添えが必要です。

さて、我々の目標はオリンピックのメダル獲得ですが、メダルを取るために「絶対」はありません。これをやれば絶対にメダルが取れるという方策もありませんし、これをやって

いるから絶対にメダルは取れないんだという状況ありません（メダルを取ることを放棄すれば別ですが）。今の日本のやり方ではだめと言われていても、突然、目を見張るような強い選手が出現して金メダルをかつさうかもしれません。このような事を述べますのは、我々は絶対的な何かを議論しているのではなく、目標達成のための「確率」を上げる努力を話しているのだということをご理解いただきたいためです。

このメダルへの「確率」を上げるという視点から、私は多くの方の意見を聞きながら自分なりの考え方をまとめてきました。まだ勉強不十分ですが、次のような考え方です。

まず、「確率」を上げるための方策は、はっきりと判断できるものであることが必要です。例えば、良いコーチを見つけることも「確率」を上げることでしょうが、**Crew JAPAN**にとって誰が良いコーチであるかはなかなか判断が難しいところです。現状、彼を選んだことは良い判断だったと考えておりますが、**Crew JAPAN**は現実にはマックスに賭けてみるしかありませんし、それを数値的に示せと言われても難しいものがあります。

それでは、判断のできる「確率」を上げる方策とはどのようなもののでしょうか？いろいろな人たちの意見を集約すると次の二つの方策が浮かび上がってきました。

まず、メダルを取れる能力の有る選手を集めることです。何を分かりきったことをとお叱りを受けそうですが、ここではメダルを取れる能力に注目します。エルゴメーターが選手的能力を知る有力な機材であることは今や常識ですが、このエルゴで選手的能力を数値化し、メダルを取れる能力を判断します。確かにエルゴの数値は水上のパフォーマンスを表すものではありませんが、エルゴの数値とメダルを狙える能力に極めて強い相関があるのも真実です。現在のボート界で主流の考え方では、メダルを狙うには、**2000m** のエルゴタイムが軽量級男子で **6'15"**、軽量級女子で **7'10"** を切る必要があると言われていています。このタイムをクリアする選手が非常に少ないのが日本の現実です。ロンドン五輪で勝負するには、男子で **10** 人、女子で **5** 人のこのタイムを満たす選手をそろえることが必要だと考えます。

次に、オリンピックまでの選手の準備状況です。メダルを狙うには選手にフルタイムでボートに没頭してもらうことが必要ですが、北京五輪での結果から選手にはできるだけ長くフルタイムでトレーニングさせる必要があるといわれるようになってきました。ボート大国ドイツの北京での惨敗もフルタイムトレーニングが長期間できなかったからと言われていています。現在、多くの国がフルタイムの選手を抱えている中で、フルタイムの選手がいるかないかの日本の現状ですが、「確率」を少しでも上げるためには、メダルを取れる能力のある選手に少なくとも **2** 年間はフルタイムでトレーニングしてもらうことが必要と考えます。

まとめますと、メダル獲得の「確率」を上げるために、①メダルを取れる能力のある選手を集める、②その選手に最低 **2** 年間のフルタイムトレーニングをしてもらう、ということになります。この **2** 点については、ある意味で強化の現場では「常識」だと考えられますが、今までこの点を明確に共通認識にできてきませんでした。

ここからが問題です。それでは、どうやってこの 2 点を実現してゆくのか、目標は定められど道筋は見えず、という状況を何とか克服しなければなりません。

まず①については、フィジカルの強化をそれこそ日本中で行わねばなりません。他のスポーツから、潜在能力のある選手をリクルートすることも考えられますが、まずボート仲間を強くすることが王道です。フィジカル強化に重点を置いた組織だった指導体制の構築が急務です。

②については、ロンドン五輪を考えれば、来年の夏からフルタイムトレーニングを開始するということになります。現在、社会人クラブに属する数名の選手が必要な手続きを経てフルタイムトレーニングに入れる環境にあると考えていますが、それ以外の選手については全く予測できない状況です。英国などのように選手個々人が職業としてのボートで自立できる環境であったり、イタリアのように選手のほとんどが軍人、警察官でフルタイムでのボートに支障が無かったり、中国や香港のように国家のサポートがあったりする国とは異なり、日本は厳しい状況にあります。現実的には、選手所属企業のご理解とお許しを得るためにたゆまず努力することしか考えられませんが、交渉に当たる体制をこれも皆さんのお力添えで早急に作る必要があります。

この①、②については、料理の下ごしらえのようなものです。これを省略しても形は整うでしょうが、満足する結果は得られないと考えます。

以上、思うところを述べてまいりました。繰り返しになりますが、基本は「みんなの **Crew JAPAN**」です。今年の国際試合で良い結果を残せるように応援していただき、合わせて今回示しました課題、目標をクリアできるように皆さんのお力添えを心よりお願い申し上げます。

また、これらの目標達成には少なからず資金が必要です。別途、**Crew JAPAN** サポートキャンペーンを立ち上げ、資金調達を行う予定です。こちらの方にも是非ともお力をお貸しください。

以上